

福島第一原子力発電所
2025年度第7回ALPS処理水海洋放出に向けた分析結果

＜ 参 考 資 料 ＞
2 0 2 6 年 1 月 9 日
東 京 電 力 有 限 公 司
福 島 第 一 廃 炉 推 進 カ ン パ ニ ー

- 2025年度第7回放出に向けたG4北エリアB群およびH2エリアJ群から測定・確認用設備B群へのALPS処理水の移送を2025年11月7日に完了しました。また、11月13日から循環攪拌運転を実施し、11月20日にサンプリングを行い、分析を行っています。
＜2025年12月25日までにお知らせ済み＞
- 採取した試料の分析結果から、放出基準を満足していることを確認しました。

分析項目		分析結果
①	測定・評価対象核種(29核種)	告示濃度比総和「0.24」 (告示濃度比総和1未満を確認)
②	トリチウム	25万ベクレル/ℓ (100万ベクレル/ℓ未満を確認)
③	自主的に有意に存在していないことを確認している核種(39核種)	全ての核種で有意な存在なし
④	一般水質 (44項目)	基準値を満足 (自主的に水質に異常のないことを確認)

- 外部機関(化研)の測定結果※も当社同様、放出基準を満足していることを確認しました。
- ALPS処理水のトリチウム総量は約2.0兆ベクレル、海水で希釈した後のトリチウム濃度は約338ベクレル/ℓと想定しており、国の規制基準 6 万ベクレル/ℓ、WHO飲料水基準 1 万ベクレル/ℓ、政府方針で定められた1,500ベクレル/ℓに比べて十分に低い値となります。
- 現在、放出に必要な共通設備（移送設備や放水設備等）の点検を実施してます。第7回放出は点検が完了した2026年3月に開始予定です。放出開始日については、点検が完了し次第、お知らせいたします。
- 引き続き、安全な海洋放出を安定的に実施できるよう緊張感を持って取り組んでまいります。

※ ①測定・評価対象核種（29核種） ②トリチウム ③自主的に有意に存在していないことを確認している核種（39核種）を測定

[参考] 2025年度ALPS処理水放出計画 (1/2)



- 2025年度の放出計画は以下の通り、年間放出回数7回、1回当たりの放出水量約7,800m³、年間放出水量約54,600m³、年間放出トリチウム量約15兆ベクレルを計画。

管理番号※1	移送元タンク※2	移送量※3	放出開始時期
25-1-12	G4南エリアB群 (測定・確認用設備 A群に移送) K3エリアA/B群 ※5 (測定・確認用設備 A群に移送)	※4 二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.45~0.55※6 トリチウム濃度 : 22万~37万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量 : 2.8 兆ベクレル : 約8,080m ³ : 約910m ³	4月
25-2-13	K3エリアA/B群 ※5 (測定・確認用設備 C群に移送) J1エリアE群 (測定・確認用設備 C群に移送)	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.45~0.62※6 トリチウム濃度 : 22万~38万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量 : 1.9兆ベクレル : 約6,970m ³ : 約820m ³	6~7月
25-3-14	J1エリアE群 (測定・確認用設備 A群に移送) G5エリアE群 (測定・確認用設備 A群に移送)	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.47~0.62※6 トリチウム濃度 : 20万~38万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量 : 2.9兆ベクレル : 約7,300m ³ : 約480m ³	7~8月
25-4-15	G5エリアE/C/B群 (測定・確認用設備 B群に移送)	※4 二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.47~0.62※6 トリチウム濃度 : 20万~22万ベクレル/ℓ ※7 トリチウム総量 : 1.6兆ベクレル : 約8,970m ³	9月

次スライドへ

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「25-1-12」は25年度第1回放出かつ通算第12回放出を表す。

※2 移送量（実績値）の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。

※3 下線部は実績値を示す。

※4 受入先の測定・確認用タンクA・B群はタンク点検後で残水が無い状態のため、移送量としては合計約9,000m³となる（放出水量は約7,800m³）。

※5 K3エリアA/B群は、2023年度および2024年度に移送・放出により空になったところへ再度ALPS処理水の受け入れを実施。

※6 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種（Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Co-60,Sb-125,Ru-106）の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値（0.11）およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。

※7 タンク群平均、2025年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値。

【参考】2025年度ALPS処理水放出計画（2/2）



前スライドより

管理番号※1	移送元タンク※2	移送量※3	放出開始時期
25-5-16	G5エリアB/A群 (測定・確認用設備 C群に移送)	: 約7,780m ³	10～11月
25-6-17	G5エリアA/D群 (測定・確認用設備 A群に移送) G4北エリアA群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約4,050m ³ : 約3,710m ³	11～12月
点検停止（測定・確認用設備 C群タンクの本格点検含む）			
25-7-18	G4北エリアB群 (測定・確認用設備 B群に移送) H2エリアJ群 (測定・確認用設備 B群に移送)	: 約3,760m ³ : 約4,040m ³	3月

➡ 2025年度放出トリチウム総量：約15兆ベクレル

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「25-1-12」は25年度第1回放出かつ通算第12回放出を表す。

※2 移送量（実績値）の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。

※3 下線部は実績値を示す。

※4 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種（Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Co-60,Sb-125,Ru-106）の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値（0.11）およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。

※5 タンク群平均、2025年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値。